



Dr. 健康コラム

新型コロナウイルス感染症の罹患後症状について

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

新型コロナウイルス感染症との戦いも3年目に入り、この病気についての多くの知見が集積され、感染対策や診断、治療、ワクチンを柱とする予防法が確立されつつあります。

一方で、感染後、既に感染性が消失し主要な症状が回復したにもかかわらず、「後遺症」と呼ばれるような症状に悩む患者さんが一定数みられることがわかってきました。

○新型コロナウイルス感染症の罹患後症状(後遺症)とは？

WHOの定義によると「新型コロナウイルス感染症に罹患した人に見られ、少なくとも2か月以上持続し、また、ほかの疾患による症状として説明がつかないもの」とされています。これは、新型コロナウイルス感染症にかかった後、感染性は消失したにもかかわらず、ほかに明らかな原因がなく、急性期から続く症状や経過の途中から新たに、または再び生じて持続する症状全般を指します。



○代表的な罹患後症状と経過について

罹患後症状は、新型コロナウイルス感染症の症状が軽症や無症状の場合でも発症する可能性があり、一般的に複数の症状がみられます。

国内の新型コロナウイルス感染症と診断された入院歴のある525例の調査によると、「疲労感・倦怠感」「息苦しさ」「睡眠障害」「思考力・集中力低下」は、診断6か月後に罹患者全体の10%以上にみられたものの、一方で多くの罹患者については症状が改善されていました。

また、罹患後症状が1つでも存在すると、不安や抑うつ、新型コロナウイルスに対する恐怖心が増強し、睡眠障害も増悪しました。

代表的な新型コロナウイルス感染症の罹患後症状

全身症状

- ・倦怠感
- ・関節痛
- ・筋肉痛



呼吸器症状

- ・咳
- ・喀痰
- ・息切れ
- ・胸痛



精神・神経症状

- ・集中力低下
- ・記憶障害
- ・抑うつ
- ・不眠
- ・頭痛



その他の症状

- ・嗅覚障害
- ・味覚障害
- ・動悸
- ・下痢
- ・腹痛



また、海外の調査では高齢、肥満、女性に罹患後症状がみられやすいとの報告があります。一方、ワクチンを2回接種した後に新型コロナウイルスに感染した場合、28日以上長引く症状が半減したとの報告もあります。

罹患後症状の起こる原因は、ウイルス感染臓器への直接的障害、感染後の免疫調節不全による炎症、血栓症による血管損傷や血流不足、重症者の集中治療後症候群などが想定されていますが、明確にはわかってません。

○罹患後症状を訴える患者へのアプローチ

罹患後症状は3か月ほどで約2/3は回復しますが、治療方法が確立されていないものもあり、症状が続く場合には日常生活や仕事、学業などに影響が及ぶこともあります。

医療者側にとっても、前例がなく対応に苦慮する部分もありますが、かかりつけ医等が慎重な経過観察や対症療法を行い、必要に応じて新たに開設された罹患後症状専門外来の専門医に紹介することによって対応することは十分可能と考えられます。

症状発現には複合的な要素が関与していると考えられるため、全人的アプローチが重要です。社会人においては就労復帰が課題となることもしばしばあり、リハビリや職場での配慮の必要性から多職種の連携が重要です。



参考文献：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント(暫定版)」2021年12月1日